



Title	スポーツを手段とする貧困削減への取り組み（２）：カンボジアの事例から
Author(s)	岡田, 千あき
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2019, 45, p. 39-51
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71832
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スポーツを手段とする貧困削減への取り組み（２） －カンボジアの事例から－

岡 田 千あき

目 次

- １．はじめに
- ２．研究の背景
- ３．Happy Football Cambodia Australia (HFCA)
- ４．結果
- ５．おわりに

スポーツを手段とする貧困削減への取り組み (2)

—カンボジアの事例から—

岡 田 千あき

1. はじめに

スポーツが貧困の撲滅や削減に寄与するとは一概には言い難い。しかし、貧困削減を目的にスポーツを活用し、その規模を拡大し続けている世界的な大会がある。ホームレスワールドカップ (Homeless World Cup: HWC) は、2003 年から年 1 回、世界各国で開催されているフットサルの大会である。「ホームレス状態を社会からなくすこと、ホームレス状態にある人々が自らの人生を変えるきっかけを作ること」¹⁾を目的としており、世界 60 ヶ国以上から 500 人を超えるホームレス状態にある人々が参加している。

HWC に参加する各国には、当該国の貧困やホームレス問題に精通し、HWC への派遣前と帰国後の活動を行う団体が存在する。ナショナルパートナー (National Partner: NP) と呼ばれており、ホームレス支援、社会的弱者の支援、青少年育成などを行う団体が、活動の一部としてあるいは HWC への選手派遣を目的に活動を行っている。

本研究では、カンボジアの NP である Happy Football Cambodia Australia (HFCA) の活動に着目し、カンボジアの貧困削減の文脈においてスポーツに期待された役割と具体的な成果を検証する。さらに何らかの成果が出ていた場合には、成果を担保しているであろう HFCA の組織的特徴を探ることも目的とする。

2. 研究の背景

2-1. ホームレスワールドカップとは

HWC には、16 歳以上で過去に HWC に出場しておらず、①大会開催日より 1 年以内に 3 週間以上のホームレス経験がある、あるいはストリートペーパー販売で生計を立てている、②2 年以内に麻薬やアルコール依存の治療を受けている、③1 年以内に亡命したあるいは亡命申請中である、のいずれかに当てはまれば参加が可能である²⁾。しかし、言うまでもなく、ホームレス状態にある人々の生活の実態は、国や地域によって大きく異なっているため、各国の NP は独自の基準を用いて選手選考を行っている。各国の NP は、主に国内での選手選考、渡航準備、帰国後のフォローアップなどを担い、HWC 大会本部は、開催都市の市町村と共に組織委員会を結成し、大会の運営と大会中の宿泊、

食事、域内交通、観光の機会などを提供する。

2-2. 研究方法

カンボジアの首都プノンペンにおける HFCA の日常練習およびイベントの参与観察と関係者へのインタビューを併用した。調査は、2015 年 10 月 28 日～11 月 3 日、2016 年 2 月 12 日～16 日、2016 年 8 月 20 日～24 日、2017 年 12 月 1 日～6 日の計 22 日間、HFCA の代表を始めとした関係者延べ 18 名に対して平均 80 分の個別インタビューを行った。この中には、連携する 4 団体の代表者も含まれている。インタビューは、HFCA が日常練習を行うプノンペンの Cool Sports Club を中心に、イベント会場、喫茶店などで英語を用いて行い、主な調査内容は、初期には活動を開始した経緯や動機、団体の成り立ちについて、中期には、活動内容や連携団体の概要、後期には組織や選手の変化、新しい活動と今後の展望について、と変化していった。

この間、HWC の 2015 年アムステルダム大会（オランダ、9 月）、2016 年グラスゴー大会（英国、7 月）、2017 年オスロ大会（ノルウェー、9 月）においても、HFCA 代表やコーチへのインタビューを行い、また E-mail や SNS を用いて継続的に連絡を取り、ラポールの構築と団体の最新情報を得ることを試みた。調査に先駆けて、筆者は 2011 年から HFCA の代表とコミュニケーションを取っていたため、本研究の結果には、調査開始前に非公式に収集した情報も活用している。

3. Happy Football Cambodia Australia (HFCA)

3-1. HFCA の活動概略

HFCA は、カンボジア王国の首都プノンペンで 2005 年より活動を行う NGO である。2008 年から HWC に選手を派遣しており、活動の軸は HWC に向けた定期練習の実施と年 1 回の HWC 大会への選手の派遣である³⁾。

2005 年にスコットランド人のソーシャルワーカーとカンボジア人青年が「次世代を担う子ども達にスポーツを通じた教育の機会を提供したい」という想いを共有し、団体設立の準備を開始した。HFCA は、2018 年現在、2 名の有給職員を有しているが、主には複数国のボランティアがメールや SNS を用いて活動を行っており、毎週土曜日の午前中に行われる定期練習が活動の中心である。連携団体は HFCA の定期練習に選手を派遣し、練習場、ボールなどの用具、シューズ、ユニフォーム、水などは HFCA が提供している。定期練習には、次節で示す連携団体から 100 名近い青少年が集まり、3 つのカテゴリーに分かれて約 3 時間のトレーニングが行われている。年齢毎に① 17 歳以上、② 16 歳以下、③ 14 歳以下に分けられており、HWC には、17 歳以上のカテゴリーから最大 8 名が選抜される。設立時から、カンボジア人コーチ 2 名、プノンペン在住のオーストラリア人コーチ 1 名の 3 名が指導に当たっていたが、OB が育った 2017 年以降は、全てのカテゴ

リーをカンボジア人コーチが指導している。コーチらはカンボジアサッカー連盟(Football Federation of Cambodia: FFC)が発行する公認ライセンスを有している訳ではないが、一部の者はFFCの審判講習会へのオブザーバー参加を認められ、研修を受けた経験を有する。

HWCは世界各国の都市において、7月～11月に1週間ほど行われるが、HFCAは、毎年、大会開催の5か月前を目途に派遣選手を決定し、パスポートの取得やビザ申請などの手続きを開始する。定期練習には、1連携団体あたり最大25名が参加しているが、HWCへの参加は、各団体最低1名を基本としながら、フットサルの技術のみでなく、チームの一員としての貢献の可能性などを考慮に入れて、コーチ陣とスタッフによって総合的に判断される。

HFCAが抱える大きな課題が航空運賃を含めた予算の確保である。HWC大会には全ての国が無料で参加可能であり、各国のNPはHWCの開催地までの往復旅費のみを人数分準備する必要がある。しかし、HWCの開催地は毎年異なるため、遠方になると選手の派遣が困難になり、例えば2014年のサンティアゴ大会には選手3名、コーチ1名の4名しか派遣することができなかった。2012年のメキシコ大会でも予算の都合で5名しか参加できない事態となり、HWCの開催地が、組織の財政基盤を揺るがす問題となる年も出ている。

HFCAは、個人や団体から年間約20,000ドルの活動費を集めており、主に①カンボジア国内の企業スポンサー、②オーストラリアなどでのチャリティイベント、③ホームページやSNSを通じた個人からの寄付によって賄われている。HFCAでは、ニュースレターの発行やFacebookによる情報の提供⁴⁾を頻繁に行っており、寄付者や関係者がHFCAの活動をリアルタイムに知ることが可能である。また、活動に関わる意思を持つ世界各国の支援者が、総会やカンボジアの現場に出向かなくとも主体的にボランティア活動ができる仕組みとなっている。



写真1 HFCAの定期練習



写真2 2015年のHWCカンボジアチーム

3-2. 連携団体の概要

HFCAは、これまでに6団体と連携して活動の一部を請け負う形を採用している。主

に首都のプノンペンにある孤児院や青少年支援団体が中心であるが、2015年から地方都市の団体との連携も開始している。

これらの団体とは、HFCAの代表やスタッフがコミュニケーションを取った上で、各団体の活動の中のひとつのプログラムとしてフットサルのトレーニングを提供している。かつては現在より多くの団体と連携していたが、団体そのものが活動を終了したり、プログラム担当者が辞任したり、代表者の交代によって活動方針が転換したりといった理由で数が減り、2017年現在は、Cambodian Children's Fund (CCF)、Happy School (HS)、Build Your Future Today (BYFT) が連携団体となっている。

その一つである CCF は、年間事業規模が 1.5 億円を超える巨大 NGO である。2004 年に設立され、米国カリフォルニアに本部を有するが、カンボジア、米国、英国、オーストラリア、シンガポールで法人登録がなされている。500 名近い常勤・非常勤職員とボランティアによって、約 3,000 名の住民に対して、①教育、②リーダーシップ、③コミュニティ支援、④ヘルスケア、⑤子どものケア、⑥職業訓練の 6 分野で事業を行っており、この中の 100 名強の子ども達は CCF が持つ孤児院で生活している⁵⁾。2009 年にカンボジア政府により閉鎖されたが、衛生・人権問題としてのみならず環境問題として国際的に認知された大規模な廃棄物集積所において、「世界で最も貧しく環境が劣悪なカンボジア・プノンペン郊外の埋め立て地で働く孤児や虐待を受けた子供たちのための避難所として、安全な場所と健康的な食事を提供」⁶⁾することを目的に活動が開始された。一つの村の中に、活動の拠点として、孤児院やコミュニティスクール、ヘルスポスト、託児施設などを設けており、包括的な支援モデルとして表彰を受けるなど、国内外から注目を集める団体である。

HS は、Act, Change, Education (ACE) の基金により 2004 年より運営されている民間の教育施設である⁷⁾。4 名のスタッフと 7 名の教員で運営されている孤児院であるが、親がいても貧困を理由に就学できない子ども達も在籍しており、この場合、親の経済力が十分な水準に達した時点で退所となる。HS では、施設内で 1 年生～5 年生の児童に対して、国家資格を持つ教員が公立小学校と同じカリキュラムを提供しており、2016 年現在、6 歳～10 歳の 110 名の子どもが在籍している。5 年間のプログラムの終了後には、公立小学校、中学校に進学するための奨学金や制服、学用品が提供され、原則的には親元に戻るが、親の経済状態が安定しない場合は HS に残ることができる。HS では、小学校と同じ科目の授業に加えて、英語、クメール舞踊、コンピューターなどのクラスが開設されており、HFCA のフットサル活動もその一つである。毎年、数名の海外からのボランティアを 1 名につき 2 週間程度受け入れており、ボランティアがこれらの特別講義を提供することも多い。

カンボジアの都市部、特に首都のプノンペンでは、経済成長に伴った格差の拡大が顕著であり、未だ極度の貧困下で労働を余儀なくされる子どもが少なくない。HS は活動を行う地域の子どもの就学環境にも留意しており、朝食を無償提供したり、HS で暮らす子

どもの保護者に対して、年4回、25kgずつ米を支給している。他の兄妹が労働により就学を妨げられる事態を防ぐことが目的である。

BYFTは、連携団体の中で唯一、別州のシェムリアップに拠点を置き、選手は夜行バスで行き来をしてHFCAのトレーニングに参加している⁸⁾。BYFTの代表は、ポルポト時代後に難民となり、タイ国境沿いの難民キャンプで生活した。ここで、教員をしながら多くの孤児を育て、2006年に子ども達と共に出身地であるシェムリアップに戻り孤児院を立ち上げた。

BYFTは、孤児院を経営するほか、農村開発の活動も行っておりカンボジアのローカルNGOとしては稀有な存在である。BYFTは、地域住民の声や現地視察を通じて、活動対象となる貧しい村を選定し、1村あたり4年間をかけて、オーダーメイドの細やかな支援活動を行っている。支援は、①子どもの支援と学びの拠点作り、②教育開発、③健康と栄養、④キャパシティビルディングと生計向上、⑤平和構築の5分野を組み合わせで行われており、村人への聞き取りを基に地域の課題を抽出した後に、課題解決に向けた支援が行われる。4年間の活動が完了した村が2016年現在、30村に上っており、それらの村において就学支援を受けたり、技術訓練を受けて就業したりした者が、ボランティアとして休日にBYFTの活動に関わっている。ボランティアの職種は、看護師、教師、美容師、ツアーガイド、自動車整備士と多岐に渡り、BYFTの活動の幅を広げる大きな後押しとなっている。

3-3. HFCAの活動内容の変遷

HFCAは、2015年からそれまでの男子3カテゴリーに加えて、14歳以上の女子に対する活動を開始した。地域の女子サッカーリーグに登録し、12月～3月の4か月間、毎週土曜日に約30km離れた会場で試合を行っている。4月～11月は、男子と同様に週1回の定期練習を行っており、2017年現在、約30名が参加している。Moore (2015)は、「初めてカンボジアで暮らした2007年には、フラフープやエアロビクス講習への参加を除いて身体活動に参加する若い女性を見たことがなかった」⁹⁾とし、「国が貧困状態から脱却し始めた時期、女性たちは、楽しむためのみでなく、敏捷性や強さ、チームビルディングなどのスキルを身に付けるためにバドミントンやスケートボードなどの手軽な運動を始めた」¹⁰⁾と述べている。HFCAの女子チームの活動は、カンボジア女性のスポーツ機会の拡大と機を同じくして開始されたものである。

HFCAは、2015年からHWCに出場した選手や引退した選手を対象に“Reunion Cup”と名付けた同窓会イベントを開始している。2015年に45人のOB選手を集めて第1回大会を開催して以降、HWCに出場した選手と過去のHFCAの活動参加者を集めて毎年行われている。大会では、年代ごとにチームを作り試合を行うほか、試合の合間に近況を報告しあい、食事を共にしながら時間を過ごす。HFCAが2017年までにHWCに派遣した選手は46名であるが、うち3名が2017年現在服役中であり、1名が消息不

明である。服役の理由は各々異なるが、2名については友人の薬物使用を理由とした逮捕の巻き添えになったと言われている。HFCA は、OB 選手の中から逮捕者や行方不明者が出た原因を究明し、HWC の終了後にコーチやスタッフ、チームメイトや先輩・後輩とのコミュニケーションを取ることを、特に年長者からアドバイスを受ける重要性を認識するに至った。“Reunion Cup” では、集まった OB たちが、かつてのチームメイトや HFCA のスタッフに近況を報告するのみでなく、異なる年代の参加者とコミュニケーションを取り、SNS のアドレスや携帯番号を交換するなど親交を深める。この活動は、2015 年の第 1 回大会の開催以降、参加者数を増やしており、事務局長の Vibol(2016) は、「頼る人がいない時に自分と似た境遇で頑張っている人の話を聞くことは人生の中で非常に有効である」と活動を評価している。

HFCA は、2017 年 10 月から、プノンペン地域リーグである“KMH Champions League”¹¹⁾への参加を決めた。2017 - 2018 年シーズンは、10 月 22 日～7 月 22 日までが予定されており、企業、地域、NGO など 32 チームが、10 月～1 月に第 1 ラウンド、2 月～5 月に第 2 ラウンドとして土曜日の夕刻から予選リーグを戦う。“KMH Champions League”の代表は、「HFCA と KMH は、サッカーをすることは、劣悪な環境にある子ども達を救うだけでなく、健康状態を改善し、これが最も重要ですが、健全な生活の基礎となる精神的な強さを獲得し、また、彼らがより良い社会の構成員になることに寄与するという信念を共有しています」¹²⁾と HFCA の大会への参加を歓迎した。

大会に参加する他のチームの多くが、外国人選手と契約を結んでおり、カンボジア人選手も多くがプロ契約をしているが、1 試合ごとに報酬を得ている。HFCA チームは、選手全員が HWC に出場したカンボジア人選手であり、遡れば、全員が孤児院出身者である。現時点で、HFCA チームが選手に支払うのは交通費のみであり、選手は、働いたり、学んだりしながら、大会に参加している。しかし、リーグに参加していることで、選手たちは、活躍如何によっては上位リーグや他のチームの目に留まり、スカウトされる可能性が生まれる。“KMH Champions League”への参加により、プロサッカー選手になることが単なる夢ではなく、現実的な道として見えたとも言えるであろう。



写真 3 HFCA の女子の活動



写真 4 2017 年の Reunion Cup

4. 結果

HFCA は、定期練習と HWC への選手の派遣を活動内容の中心に据え、一定の成果を挙げたと言えよう。カンボジアの実質 GDP 成長率は、2011 年～2016 年まで毎年 7% 前後の高い水準を維持している¹³⁾。また、「2016～2017 年にかけて、多くの新興国が景気の減速ないし後退に見舞われるという厳しい状況が予想される中で、カンボジア経済は、別世界とも言えるような堅調さを維持することが見込まれている」¹⁴⁾とされており、繊維縫製業や観光業の活況、中国を始めとした海外投資の増加に下支えされた経済の進展は失業率を低下させ、人件費の上昇をもたらしている。政治的な課題は山積みであり、急激な経済成長に伴う新たな課題も噴出しているが、内戦、虐殺、地雷、孤児、貧困といった対外的なカンボジアのイメージは、アジアで最も期待される成長国のひとつへと転換されつつある。

このような状況下で、HWC に出場した選手たちの多くは、大会参加前は経済成長の蚊帳の外に置かれていたか、広義の意味で成長の犠牲となっている状況であった。しかし、選手たちは、HWC に出場することにより「目が開かれ (Open Eyes)」¹⁵⁾しており、多くの選手たちに、積極的に就業、就職の道を模索するなどの変化が見られた。筆者の観察でも、帰国後に表情の変化があったと感じる選手がおり、HWC での経験により、自信やコミュニケーション能力、異文化への理解力などを身に付けたと推測される。

HWC への参加が収入創出には直結しないと述べたが、2017 年現在のカンボジアでは例外が存在する。特に首都プノンペンが顕著であるが、「サッカー関係の仕事」が増加しており、契約選手はもちろん、コーチについても頻繁に求人がみられる。カンボジアでは、部活動や地域スポーツクラブの仕組みが整っておらず、ジュニアの時代に国際大会はもちろん国内で競技大会を経験する者はわずかである。サッカーについては、小学生、中・高校生の全国大会が行われているものの、子ども達が選手として定期的に練習をし、大会に出場する機会は極めて限定的である。その中で、HWC への出場経験のある選手は、「国際大会の経験者」であり、一流競技者と見なされる場合もある。

カンボジアでは、2000 年以降に始まったサッカーブームが、政府の後押しもあり現在も拡大している。この現象は、「若者世代には、校庭で『遊び』としてサッカーをしていた者が多く、身体の成長や経済的な自立と時を同じくして国内のサッカー熱が高まっていった」¹⁶⁾と説明される。また、「若者が自分たちでチームを作り、練習を行い、他のチームと対戦することが、一種のムーブメントとして急速に国内に広がって」¹⁷⁾いき、社員の健康維持や福利厚生を目的にサッカー部を創設する企業が増加している。HFCA の元選手は、これらの企業やクラブチームとコーチとして契約したり、コーチ兼任で就職している。これまでに輩出したプロ選手 2 名と同様にサッカーで生計手段を獲得した事例と言えるであろう。

これらの具体的な成果を担保する HFCA の組織としての特徴を整理してみたい。

HWC に出場する他国の NP にはあまりみられないが、HFCA は、サッカー／フットサルに特化した活動を行っており、それにより選手の派遣元や広い意味での社会からの信頼を獲得している。主たる活動を日常練習と HWC への選手の派遣に限定し、FFC と連携したり地域リーグに参加することによって、サッカーの専門性を高める努力を継続している。それにより、元選手である OB の専門性も強化されることになり、HWC の成果の最大化が図られているとも言えよう。また、サッカー／フットサルの専門性を基盤に、対象を女子へと拡大し、地方都市の団体との連携を開始し、“Reunion Cup”を開催するなどの新たな試みを行っている点も評価に値する。サッカー／フットサルの専門性という軸がぶれないために、活動がシンプルに整理され普遍性が高い形に進化を遂げている。

第二の特徴として、組織の運営形態が挙げられる。日常練習を HFCA のカンボジア人コーチ陣が行う一方で、広報や渉外、資金集めなどは、スコットランド人の代表を中心に HFCA の経営陣が行っている。HFCA の中には細かく層化された役割分担があり、各自が責任を認識して連携しているが、綿密なコミュニケーションが基盤となっている。HFCA は、選手の派遣元となる団体に自ら声をかけて活動への参加を要請することはしておらず、知人や団体からの紹介で繋がりを作っている。コミュニケーションの中心は E-mail や SNS による連絡であり、理念や活動内容がシンプルにまとめられた上で共有されており、かつ専門的な部分については、各担当者の采配権限が広いことも特徴である。HFCA は、団体の内外ともに人間関係を構築した上で、コミュニケーションを取りながら活動を継続しており、量より質の丁寧な運営を行っていることが最大の特徴であると言える。

5. おわりに

HFCA の活動は、2000 年代後半に入り、カンボジア国内で注目を集め始めている。地域リーグへの参加やこれまでの広報の成果、カンボジア国内のサッカー熱の高まりなど複数の要因が考えられるが、OB 選手数の増加の結果、HFCA の専門性への注目度が高まった結果と推測する。近年では、国内リーグでプレイするプロ選手も生まれていることから、将来の生計手段の一つにサッカー／フットサルの技能の習得が含まれ、さらに HWC の価値が上昇したと推測する。

HFCA や HWC の存在が若者の個人的な成長を促し、さらには、社会に出て行った個人によって HFCA や HWC の活動の価値が高められている。近年のカンボジア社会における HWC の貧困削減の取り組みは、個人的な成果という文脈において、一般化できるモデルとしての価値を持ち始めていると評価することができる。

注

1) Homeless World Cup ホームページ <http://www.homelessworldcup.org/> [2011/08/20]

- 2) 岡田千あき (2014) 『サッカーボールひとつで社会を変える』 大阪大学出版会
- 3) Happy Football Cambodia Australia ホームページ <https://hfca.org.au/> [2018/03/05]
- 4) Happy Football Cambodia Australia Facebook
<https://www.facebook.com/happyfootballcambodiaaustralia/> [2018/03/05]
- 5) Cambodia Children's Fund ホームページ
<https://www.cambodianchildrensfund.org/> [2018/03/05]
- 6) Mayer International Ltd. ホームページ
<https://meyerjapan.com/cambodian-childrens-fund/> [2018/03/05]
- 7) ACE ホームページ <http://acehappyschool.com/the-happy-school/> [2018/03/13]
- 8) Build Your Future Today ホームページ
<http://www.buildyourfuturetoday.org/> [2018/03/13]
- 9) Thomson Reuters Foundation の記事 “Cambodia Looks to Ignite Female Sports Culture” 内における Anne Elizabeth Moore のコメント
<http://news.trust.org/item/20150216103607-pefv0> [2018/03/05]
- 10) Thomson Reuters Foundation の記事 “Cambodia Looks to Ignite Female Sports Culture” 内における Anne Elizabeth Moore のコメント
<http://news.trust.org/item/20150216103607-pefv0> [2018/03/05]
- 11) KMH Champions League ホームページ <http://www.kmhchampionsleague.com> [2018/03/05]
- 12) HFCA Facebook
<https://hfca.org.au/news/2017/oct/26/hfca-entering-team-20172018-kmh-champions-league/> [2018/03/07]
- 13) World Bank (2017) World Development Indicators. Washington D. C., World Bank
- 14) 堀江正人 (2016) 「カンボジア経済の現状と今後の展望—なぜ日系企業のカンボジア進出が増加したのか?—」 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
http://www.murc.jp/thinktank/economy/analysis/research/report_160308.pdf [2018/03/12]
- 15) HFCA のカンボジア人事務局長 Vibol 氏の 2016 年のインタビューより。
- 16) 岡田千あき (2014) 『サッカーボールひとつで社会を変える』 大阪大学出版会
- 17) 岡田千あき (2014) 『サッカーボールひとつで社会を変える』 大阪大学出版会

付記

本研究は JSPS 科研費 JP15H03071 の助成を受けたものです。

文献表

Ahrens, S. (2015) Understanding sport as the expansion of capabilities: The Homeless World Cup and street soccer (Scotland). Edinburgh: The University of Edinburgh.

- Coakley, J. and Peter, D. (2009) Sports in Society -Issues and Controversies, Ontario: McGraw-Hill Education.
- Collins, M. and Reinhard, H. (2015) Social exclusion and austerity policies in England: The role of sport in a new area of social polarization and inequality?. *Social Inclusion*, 3 (3): 5-18.
- Magee, J. and Jeans, L. (2011) Football's coming home: a critical evaluation of the Homeless World Cup as an intervention to combat social exclusion. *International Review of Sociology of Sport*, 48(1): 3-19.
- Serry, E., Karg, A. and O'May, F. (2010) Social capital and sport event: spectator attitudinal change and the Homeless World Cup. *Sport in Society*, 14(1): 111-125.
- World Bank (2017) World Development Indicators: Washington D. C.: World Bank
- 岡田千あき (2014) サッカーボールひとつで社会を変える. 大阪大学出版会 : 大阪.
- 岡田千あき (2015) スポーツを通じた国際協力とは, 齊藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文編著 スポーツと国際協力. 大修館書店 : 東京.
- 岡田千あき (2016) 貧困とスポーツ～ホームレスワールドカップが発信する物語～. 大阪大学大学院人間科学研究科紀要, 42: 141-161.
- 岡田千あき (2017) 「貧困とスポーツ」に関わる組織の発展戦略. 大阪大学大学院人間科学研究科紀要, 43: 67-84.
- 外務省 (2016) 開発協力白書～日本の国際協力～. 外務省 : 東京.
- 鈴木直文, 岡田千あき (2015) NGO によるスポーツを通じた国際協力, 齊藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文編著, スポーツと国際協力. 大修館書店 : 東京.
- 堀江正人 (2016) カンボジア経済の現状と今後の展望～なぜ日系企業のカンボジア進出が増加したのか?～ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 http://www.murc.jp/thinktank/economy/analysis/research/report_160308.pdf (参照日 2018 年 3 月 12 日)
- ヤングケビン (2015) スポーツとは, 齊藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文編著, スポーツと国際協力. 大修館書店 : 東京.

Initiatives for poverty reduction through sport in the Homeless World Cup II : The case of Cambodia

Chiaki OKADA

The Homeless World Cup (HWC) is an annual event for homeless people. Almost 600 homeless players sent by national partners from over 60 countries participate in it. These national partners are currently conducting daily activities in 420 venues worldwide. Happy Football Cambodia Australia (HFCA) is an organization that has been conducting futsal activities in the Cambodian capital city, Phnom Penh, since 2005. It offers weekly futsal trainings to Cambodian youth, aged from 8–24 years, who are sent from several youth support NGOs and orphanage centers. We conducted face-to-face interviews and participant observations from October 2015 to November 2017 with 18 HFCA-related persons, including four staff members from collaborative NGOs and ex-players of HFCA.

From these interviews, we found that almost all of the ex-HWC players had found the learning or working opportunities spontaneously, while, a few faced difficult life situations. HFCA has started to have new programs to commit their issues: 1) creation of women's teams, 2) holding of the Reunion Cup for ex-players, and 3) participation in the local football league. These new trials of HFCA are rigorously related to football/ futsal, and play a significant role in building trust in and improving the expertise of the HFCA's specialties. In the recent Cambodian society, especially in Phnom Penh, demands for football players and coaches has increased because of a boom in the sport. Many companies have football clubs and recruit new staff members, although their level of expertise in football vary. A few ex-HWC players have found jobs as coaches or players, or even as staff members by evaluation of their experience in the HWC. Thus, the significance of HWC seems to have expanded, as seen from the recent trend in Cambodian society as well as HFCA's activities.